

一般質問

3月定例会では、16人の議員が一般質問を行いました。(順不同)

Q&A



一般質問とは、本会議で議員が市政全般にわたって市長等(執行機関)に対して疑問点を質問したり、政治姿勢を明らかにしたりするものです。



「公明党」 田中 志摩子
下水汚泥を肥料化し持続可能な農業発展の取り組みを

Q 本市の下水汚泥はセメントの資源化率が高いが、SDGsの観点からも100%肥料化して、市内の農業へ活用するなど循環型農業への展開を目指すべきと考えるが、市長の見解を伺う。

A 【市長】 本市においては、下水汚泥の有効利用を図るために、平成5年度から下水汚泥の一部を肥料の原材料として活用を始めている。平成13年度からは建設原料としても再生利用を行っており、



児童館・福祉館の今後のあり方は地域住民の声を聞く
「日本共産党」 宮脇 俊彦

Q 公共施設等総合管理計画住民意見交換会が出された意見をどう受け止めているのかについて伺う。

A 【行政経営担当部長】 公共施設再配置プランを着実に実践していくためには、市民との情報共有、対話、協議が不可欠であることから、地区別の住民意見交換会での意見を踏まえて、公共施設等を取り巻く現状や課題



「いせはら未来会議」 橋田 夏枝
部活動の地域移行に向けて早急な実態調査を

Q 近年は、教職員の成り手不足、多忙化防止の議論の末、部活の負担を減らし、休日もしっかり取ってもらおう案も出てきている。しかし、教職員の中には、部活があるからこれまで教員を続けてこられたという部活動に非常に熱心な先生もいる。部活の地域移行に対して賛成か反対か、教職員の間でも意見が分かれるので、アンケートなどを実施して実態調査を行った

A 【学校教育担当部長】 教職員の現状やニーズ生徒、保護者、地域の現状やニーズを把握するための意識調査等において、令和5年度より実施していきたいと考えている。



歴史資料館等の建設について、市長の考えを伺う
「いせはら進誠会」 山田 昌紀

Q 多くの市民から、歴史資料館等の要望があり、過去にも多くの議員が歴史資料館等の建設を提案している。市長の考えについて聞きたい。

A 【市長】 地域の歴史文化を保存、活用する歴史資料館の建設については、市民の要望があることは承知しており、魅力を発信し、地域の活性化、そして市民の郷土愛の醸成のためには、そうした施設が有効であることも



新たな住宅地整備の傾向について
「創政会」 大垣 真一

Q コンパクトシティ・プラス・ネットワークにおいて、住宅系市街地の拡大ではなく、現在の市街地において人口密度を高めていく考え方については理解しているが、今後どのような傾向となるのか、見解を聞きたい。

A 【都市部長】 今後の都市づくりにおいて、都市部で、空き家、空き地などがランダムに発生し、都市の密度が低下していく都市のスポンジ化が懸念されている。人口密度を維持し、高



ユニバーサルデザイン化の拡充について
「公明党」 中山 真由美

Q 地域での交流する機会や場所づくりについて、さらに市民の交流が活発に行われるよう、相談窓口ワンストップ化および、特に若い世代に向けた周知が必要と考える。SNSによる周知方法等について、見解を聞きたい。

A 【保健福祉部長】 地域での交流機会や場所づくりに係る相談窓口のワンストップ化については、第5期伊勢原市地域福祉計画における取り組みである包括的な支援体制の中で受け止めていく考えを検討していきたいと考



学校給食の生ごみ処理について
「いせはら未来会議」 安藤 玄一

Q 学校給食の調理段階で出た残渣、生ごみや食べ残し等は、事業系の一般廃棄物として許可業者が収集し、焼却処理もされるものだと考えるが、本市の見解を伺う。

A 【学校教育担当部長】 事業活動に伴い生じた廃棄物は、種類や量に関わらず、事業系ごみとなり、排出者である事業者が処理責任があることは承知している。現在、小学校給食の残渣は、他の公共施設と同



事業協力者の選定の理由について
「創政会」 埴田 巖

Q 伊勢原駅北口地区再開発事業について、事業を進めていく上で必要不可欠なパートナーとして決定した企業を選定した理由について聞きたい。

A 【都市部長】 市街地再開発事業への参画実績や小田急線沿線の事業展開実績が豊富なこと、事務局員の派遣や権利者対応、立替金の協力など万全の体制の提案がされており、事業推進に対して安心感を与えるものであったこと、グループ企業と協調しながら本市のまちづくりに取り組んでいくという姿勢、また、事業成立



【その他の質問】
◎ 誰もが投票しやすい環境整備の拡充について



【その他の質問】
◎ 市民の森ふじやま公園と伊勢原市総合運動公園について